

第15回 九段小学校・幼稚園施設整備検討協議会 議事録（要約）

日 時：平成28年6月17日（金）  
午後6時30分～8時00分  
場 所：九段上集会室 洋室AB  
出席状況：出席委員16名  
欠席委員 6名  
事務局：子ども施設課

小池課長 時間となりましたので、第15回九段小学校・幼稚園施設整備検討協議会を開催いたします。  
冒頭に教育担当部長から小学校関係の事故報告がございます。

小川部長 こんばんは。教育担当部長の小川と申します。お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。会の趣旨とは異なりますが、1点事故の報告がございますのでご説明させていただきます。  
本日の午後3時35分頃、九段小学校5年生の男子児童が下校途中に靖国神社南門の交差点で、青信号で横断していたところ、右折する車に巻き込まれるという交通事故がございました。見守り隊が近くにおりましたので、直ちに駆けつけ、119番通報し、教諭付添いのもと救急車で病院へ搬送されました。現状ですが、意識ははっきりしており、擦り傷はみられるが、骨に異常はないということです。現時点の見込では、今晚入院しますが、明日には退院するとのことです。  
現時点で判明していることは以上です。

小池課長 それでは会長から開会の挨拶でございます。

田中会長 みなさん、こんばんは。みなさまにおかれましては、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。平成27年3月に14回目の施設整備検討協議会を開催しており、その後は区から報告があればとお待ちしていた状況ですけれども、本日、区からみなさまにご報告があるようでございます。  
それでは、第15回九段小学校・幼稚園施設整備検討協議会を始めたいと思います。はじめに、本日は渋谷委員、小野里委員、鈴木委員、久保寺委員が都合によりまして欠席とのご連絡をいただいております。本日もいつもと同じように午後8時終了を目途でよろしくお願いいたします。

開会に先立ちまして、役職や委員の交代がございます。お手元の資料の「協議会委員会名簿」をご覧いただきたいと思います。まず、私が会長の田中でございます。よろしくお願いいたします。他の委員については、事務局から紹介したいと思います。

小池課長 平成 27 年度から担当しております子ども施設課長の小池と申します。名簿に従いまして、ご紹介申し上げます。

～以下、委員・事務局の紹介。～

以上のメンバーで始めたいと思います。よろしくお願いいたします。

田中会長 それでは、これから議事に移りたいと思います。

小池課長 議題の 1 つ目に入ります。区立九段小学校・幼稚園改築工事につきまして、改築工事を担当しております施設経営課長の加島よりご説明申し上げます。

加島課長 千代田区政策経営部施設経営課長の加島と申します。九段小学校・幼稚園の工事を担当しております。どうぞよろしくお願いいたします。資料 1 で工事の状況をご説明させていただきます。九段小学校・幼稚園の工事は平成 27 年 12 月から本格的に施工しておりますが、工期を延長しなければならない状況となりましたので、本日も報告させていただきます。資料 1 の中央に平面図がございまして、北側に赤い○が並んでいる箇所がございます。こちらは、敷地北側の石積みの擁壁があるところがございます。新築校舎は、この石積みを壊さなければならない工事になりますので、この部分に山留工事を行います。今回、この山留の工法をどうしても変更しなければならない状況になり、すでに工法を変更して工事を行っている状況です。本来の工事方法ですけれども、資料中央の写真にございます「連続地中壁工法」と言いまして、大規模な建築工事には一般的に広く用いられている工法です。資料右側の写真をご覧ください。こちらは「連続地中壁工法」で土を 10 メートル程度掘った後の写真です。こうした山留壁を作る工法で施工予定でしたが、擁壁の裏側に想定以上のコンクリートが打ち込まれていたため、この工法では施工できないことがわかりました。

そのため、資料の左側に記載しております「鋼管杭工法」に変更し、施工しております。工事現場に行くと丸い鋼管があったかと思いますが、それが鋼管杭であります。この工法は、港湾などの土木工事で多く使用されているものです。コンクリートを自力で壊しながら山留壁を作っていく工法です。現在、工法の事前の安全確認、施工上の問題、材料の手配、鋼管杭工法の工程見直しなどにより、2か月半工事が遅れている状況です。

また、資料の右側に写真を添付しております。こちらは、当初想定していなかった地中障害物が出てきている状況の写真です。Aの写真ではコンクリートスラブ、B・Cの写真ではレンガ、D・E・Fの写真ではレンガとコンクリートが混在した地中障害物が出てきている状況です。土工事と呼んでいる本格的な土の掘削はまだ行っておりませんが、工事の進行に伴い今後もこのような地中障害物が現れる可能性があり、最終的な工事期間の延長については、土工事がある程度完了してから明確になると考えております。

今後の工事について説明させていただきます。資料1中央のグレーの太い線で囲っている部分が崖以外の山留箇所になります。こちらは予定通り「連続地中壁工法」で次週から施工したいと思います。その後、杭打ち工事が始まり、資料中央のオレンジで色付けした部分の土工事を行う予定です。地盤面から約12.5メートル掘削し、その後建物本体の工事に移っていく予定です。

簡単ではございますが、説明は以上でございます。

小川部長 1点だけ補足させていただきます。ただいま、工事が遅れるということをご説明したところでございます。当初、平成30年4月に新校舎で開校・開園の予定でしたが、工期延長に伴い開校の時期も遅れるということでございます。学校ということで学期の途中での引越しは難しく、現時点では、開校が早くとも平成30年の2学期にずれこむことは確実にございますのでご報告させていただきます。

小池課長 なお、ご質問についてですが、先に議題3までご説明させていただいてからお受けしたいと思います。

小池課長 議題3 教室配置等の変更につきまして、資料2を用いてご説明させていただきます。区立九段小学校の教室配置の変更ということですが、当初の計画では、1学年2学級の計12学級であったところですが、

指導や多様な教育実践も考え、15教室の整備ができており、15学級まで対応可能な計画でありました。現在、当初の予想を大幅に上回る児童数の増加という状況にあり、30年度の開校と考えた場合、開校後まもなく15学級に達してしまうという状況です。32年度になると、普通教室転用の改修工事が必要になりますので、現段階で、18学級まで対応可能な教室配置の変更を行いたいと思います。開校当初18学級になるわけではなく、18教室あるということです。30年度開校時に15教室であった場合、3教室については他の用途に利用できます。あくまでも準備でございます。それで、翌年度以降、備品の購入等で18学級にも対応できるように計画を変更したいというものです。別紙のA3横の資料をご覧ください。西棟2階と3階を変更するよう考えております。西棟2階の変更内容ですが、多目的室と図書室2という部屋が南側にありまして、こちらを普通教室にも対応できるように変更したいと考えております。これで18教室整備されます。西棟3階の変更内容ですが、コンピューター室と図書室を図書・メディアルーム、図書室（おはなしのへや）に変更したいと思います。コンピューター室に関しましては、現在、タブレット型のパソコンが全学校に80台配備されておりますので、固定型のコンピューターでなくても情報教育・コンピューター教育が可能であり、情報検索なども考慮し教室配置の変更を考えました。教室の面積増などではなく、18学級まで対応可能な配置となっております。開校当初に普通教室として18室あるなかで、空いている教室については様々に利用可能で、随時必要になれば、普通教室に転用可能となっております。もう1枚の資料として、人工芝の写真が入ったものがあります。こちらは、校庭の仕様についての資料であり、これまでの協議会でご説明をしていなかったところがございます。最新の学校事例等をみますと、人工芝での整備が好ましいのではないかと思います。天然芝に近い感覚で利用可能で、学校としての利用に加え、サッカー、野球の際も非常に機能がよいということでございますので、人工芝を選択したいと考えております。学校の利用方法等がありますので、人工芝に関して、全面に限らず、部分的な整備も考えております。詳細については今後学校と相談し進めていきたいと思いますが、基本方針としては人工芝にしたいと思っております。説明は以上でございます。

田中会長

ありがとうございました。要約しますと、3点あり、1点目が擁壁や校庭内に想定外のコンクリート、レンガ等が出てきたので工期が2か月半くらい遅れるということ。2点目は、子どもが増えるということ、

予定では平成 31 年に 15 学級ですが、準備として普通教室を 3 つ増やすということ。3 点目は、校庭の仕様は人工芝を考えているということです。これらを踏まえまして、ご質問・ご意見いただければと思います。

田中会長 子どもたちも楽しみにしていたので、一番のショックはガラが出て工期が 2 か月半遅れるということ。卒業式が新校舎でできると考えていた子どもたちがどういうふうになるのか。こうしたガラが埋まっていることは予測しづらいことです。これらを埋めた当時の人が生きていれば埋まっていることがわかったかもしれないが、そういうわけにはいかない。

加島課長 ガラについて補足説明いたします。九段小学校の校舎は大正 15 年竣工で、関東大震災は大正 12 年のことです。九段小学校は関東大震災からの復興小学校です。区内にも震災からの復興小学校はいろいろありました。ちょうど今、神田地域で東松下町住宅を建設しておりまして、そこも同様に校庭跡からコンクリートガラが出てきました。憶測になりますが、関東大震災時に多くの建物が壊れ、それらをどこかに処分しないとけなかつた事情もあると思います。ガラももちろんそうですが、山留工法についても崖上から崖下まで 20 メートル近くの高差がありますので、安全対策はしっかりやらなければならないというところで、建築工事ではあまり使用しない「鋼管杭工法」を使用させていただいたところ。我々も工期をなるべく短くしたいのですが、何かあつては大変なことになるので、安全第一ということで工期を変更させていただいたところでございます。

田中会長 私事でお恥ずかしいのですが、私の会社の建物を 20 数年前に一部建替えた際、ガラを地下に埋めて処理しました。新しく立て直すときに地下を作らなかつたからそのようにできましたが、九段小は地下を作るからそうもいかないし、十分に気をつけて施工してもらいたい。最短で 2 か月半の工期延長になること、校庭が人工芝仕様となること、18 学級まで対応可能な計画に変更することなど踏まえて、何かご意見等がございますでしょうか。

渋川委員 工期について今の時点ではっきりしないことはわかるのですが、小川部長がおっしゃったように、学校ですので工期が延長になれば開校が学期単位で延びる可能性があると思います。山留工事の工法変更で 2 か月半工期が延びるということですが、まだ 12.5 メートルの掘削を終えて

いないということですので、その作業を行うことによって地中障害物が出現し、さらに学期単位で開校が遅れるのではないかと心配しています。いたずらに心配させるような発表をすることはできないと思うのですが、いつ頃になれば最終的な工期がわかるのか疑問に思いました。また、教室についてですが、18 教室の整備というのはわかりました。必要な諸室は整備されていると思うのですが、本当に余裕がなくなってしまうのではないかと心配しています。

加島課長

ガラ等は地盤面からだいたい 3メートルほどに埋まっていると考えております。12メートルまで掘るには時間かかりますが、3メートルほど掘った段階である程度工期が明らかになると思います。その段階に達するのが平成 28 年秋ごろと考えておりますので、その段階になれば、工期についてお伝えできると思います。

小池課長

工期は現段階で 2 か月半延びて、2 学期から開校の予定でございます。学級増の関係でございますが、15 学級対応を 18 学級対応に変更することでございますので、2 学級を 3 展開する少人数教育がやりづらくなるということはあると思います。ただ、18 学級になるということで話しておりますが、資料 2 にあるように現在は 12 学級であり、1 年生は 68 名です。1～2 年生は 35 人、3～6 年生は 40 人で学級編成となっておりますので、1 年生はあと 3 人増えれば、3 学級になるところです。3 人程度は誤差の範囲であると思います。そうしたことが 1～6 年生に対して言えます。しかし 18 学級となっても、35 人×3 学級とか 40 人×3 学級という規模の児童数増ではありません。18 学級になるのが平成 35 年なので、それまでは 15 学級、16 学級である可能性が高いと思います。平成 34、35 年度であっても 16 学級、17 学級の場合もあると思います。18 学級になった場合は学級単位で工夫をしなければならないと思います。諸室の利用方法を学校と相談し、運用方法を考えていかなければならないと考えております。

杉本委員

普通教室を増やすために、専門的な特別教室を普通教室に変更するというので、例えば西棟 3 階で言うとコンピューター室、2 階で言うと図書室が普通教室に充てられるということです。タブレット端末があるので特別にコンピューター室がなくても問題ないだろうとのご説明ですが、今後の情報教育は十分に行えるのでしょうか。また、図書室はなくなりますか。

- 小川部長 図書室は3階に移ります。
- 杉本委員 図書室2 というのはどうなりますか。
- 小池課長 低学年向けの図書室である「おはなしのへや」に変わります。
- 杉本委員 先ほどのお話では1年生が68名で3名増えると3学級になるということで、35年度は18学級になるという計画ですけれども、これより学級数が多くなったり、少なくなったりする場合がありますよね。やっぱり教室は、ある程度余裕を持って整備しておかないと。想像の範囲でもって18学級で足りるかどうかはわかりませんよね。
- ですから、これからこの地域がどういう風に発展していくのかを考えないと。この地域は開発されて、新しい集合住宅がけっこう増えています。今後もそれが増える可能性は大きいです。そうした場合のことも考えて学校の整備は考えておかないと、教室が足りない。すでに番町小学校だって麴町小学校だって足りない。学校だけじゃなくてこの地域全体がどういう地域なのかということ念頭に置いて考えていただかないと。ただ目先の数だけで判断はできないと思いますので、よく考えていただきたい。
- 小池課長 まずコンピューター室についてです。当初の計画ではコンピューター室が西棟3階にあり、固定型コンピューターで学習ができる場でした。座学で集合体として学習ができる場ではないのですが、全普通教室に無線LANの配置がありますので、どこの教室であってもコンピューター室で行う内容が確保できるように整備しております。今回転用する場所についても無線LANの整備を行いますので、コンピューター室で行うことは全普通教室でもできるということを担保する形でコンピューター室の機能については吸収できると考えております。
- 人口増の関係です。この町全体の開発ということもあるのですが、先程ご指摘いただきましたとおり、麴町小学校が区立小学校で最も多い学級数で、16学級となっております。麴町小学校は平成15年にできた小学校になるのですが、その当時は12～14学級まで対応可能な配置になっておりました。現在は16学級であり、平成30年度には18学級になる見込みです。今年の夏休みの工事で事務室などの管理諸室を若干譲ってもらいまして、この部分を転用する形で18学級対応の整備をします。

九段小学校についても15学級まで対応可能と考えていたのですが、人口増が見込まれる状況の中で、開校後に改修することがないように前もって1学年3学級上限の18教室に変更させていただきたいということです。先程申しましたように1～2年生が35人で学級編成、3～6年生については40人で学級編成となっております。一番多い児童数が麹町小学校の3年生で90人です。それが最大ですので、それ以外は3学級であっても84人とか、85人という数字です。ご心配の4学級以上という話ですけども4学級となりますと、1～2年生で106人以上、3～6年生で121人以上という規模です。今現在の人口の動態を考えますと麹町小学校であっても最大で90名ですので、学校の規模ということを考えた場合、4学級以上の整備が必要かどうかと考えますと、千代田区教育委員会としては現段階では最大3学級という認識を持っております。

小川部長

少し補足させていただきます。人口の増減は予測が相当困難でありますし、学校建築というと30～50年という長いスパンでものごとを見ないといけないということもございます。その時々最新の英知を結集して確率論としてこれぐらい増えるだろうというところを見据えながら、教室増については考えないといけません。なかでも一番確実性が高いところという意味で我々もやっている状況でございます。万々が一それでも普通教室が足りなくなった場合は、どこかの諸室を転用していくことも考えないといけないと思っております。現時点では、最新鋭の予測をしたうえで、18学級であればほぼ収まるという予測ではございますけども、委員の皆さまの意見も十分踏まえつつ、今後の推移を見ながら整備したいと思っております。

杉田委員

最初の時にたしか言っているはずですよ。最初から予測できたはずですよ。1学年3学級でぎりぎり一杯で、もっと多くなるかもしれない。これは最初から言っているはずですよ。それにもかかわらず予備教室は3つだけであり、東京都教育委員会かなにかの発表をそのまま活用して、3年たつと人口が減ると説明していたんですね。しかし、どうみたってそれでは収まらない。今これだけマンションができていて、かつてのバブルが膨らんでいた頃と違って、今はマンションの電気が全部ついていて人がたくさんいる。若い人もたくさんいる。東郷公園からも子どもたちの声がすごく聞こえますよ。それが区は全然わかってないと思うんですね。一番の失敗例は麹町小学校で、あれは旧富士見小学校の学区を一部取り込んでいて、なおかつ教室数を減らしている。それで同じよ



うなことをやるというのは能力がないというほかないですよ。

杉本委員 杉田委員がいったその通りで、私が一番申し上げたいのは、児童数が増えた場合には他の教室を転用するよう考えているとのことですが、これから先に図書室などの専門的な教室を普通教室に変えるというのは、本当に教育としていいのかということです。究極の選択でもって困ったら代替えすればいいんだと、そういうことで教育というのはいいいのかと言いたいです。

細内委員 みなさんには最初から協議会に関わっている方もいらっしゃると思いますが、優秀な区長さんが人口をどんどん増やしてくれています。それに伴って、校舎やその他区民の施設も増やさないと。大きなマンションができて人口が増えるのはいいですけど、それに関わる地域の施設が何も無い。

ついこの間も区長がお祭りの神酒所に来てくれました。その場に富士見出張所長がいたわけですね。麴町出張所長と一緒に挨拶に来ていただいたわけですが、その時に何を言い出すかといったら、「君は何でこんなところにいるんだい」というわけですね。九段二、三、四丁目は富士見出張所の管轄です。しかし、学区域としては九段小学校です。ところが、残念ながら人口が三万人を超している地域に出張所は2つしかないというわけです。そういう風に地域のことを何も考えないでこの計画が始まっているわけです。私どもは最初から何回も言っています。すぐ学校の隣、大妻女子大学との間に大きなマンションができることはご存知ですね。九段小学校の東側、ここに大きなマンション建築が申請されていませんか。

加島課長 計画があると聞いています。

細内委員 九段小学校の裏にも90世帯規模のマンションが建設中です。そういう大きなマンションがどんどん増えて、区長は人口が増えたと非常に自慢していますし、俺が増やしたとよく言っています。人口を増やしたら地域の施設を増やしていただかないと、ちぐはぐなものになってしまいます。資料2に学級数の予測がありますが、開校と同時に18学級になりますよ。今、工事しているマンションのほとんどがワンルームマンションではありません。みんな世帯で入居してきます。1～2年生だけ3学級で、他の学年は2学級でいいのかと。そうじゃないでしょ。それに子

どもたちも1年生だけが増えるということはないでしょう。そういうことは想定しているんですか。想定外だと言えば、行政はいいのですか。だいたい想定外で終わってしまいますが、私どもには想定外はありません。初めから18教室と特別教室は作ってもらわないと、ちょっとおかしな計画になってしまいます。初めから我々は18学級を想定しています。それから地域あつての学校です。学校と地域は関係ないという方もいますが、そうじゃないでしょ。住民がいるから学校があるわけですよね。その住民の施設を何もつくりしないで、学校の教室数もぎりぎりです。九段小学校は九段二、三、四丁目、三番町の避難所にもなっていますね。大きな災害があったときどうするんですか。小川部長は災害担当の経験もあるけど、子どもたちがいたらどうするんですか。ただ避難所という区の指定だけであって、場所も何もないじゃないですか。子どもたちを教室からどかしてまでもそこを避難所にするんですか。違うでしょ。やっぱり、予備の教室があつてはじめて地域の学校です。そこまで全然考えてないでしょ。地下を12メートル掘るということ自体が通常の倍以上の経費がかかるのに、どうして高層化ができないのか。例えば、3階以下は子どもたちが使い、3階より上の階は地域が使うとか、どうしてそれができないのか。区の施設であれば、学校だけじゃなくて、地域の住民のことも考えていただかないと。名前だけの避難所はやめてください。ちゃんと避難所としてのスペースを作らないなら避難所という名前は使わないでください。現実に東日本大震災のとき、校長は校門を閉めてしまいました。当たり前じゃないですか、子どもたちがいるのに地域の人が入ってきたら。幸いに、ここは二七通りと高低差があります。その高低差を利用するとか、同じ区の敷地である東郷公園の敷地を活用するとか、同じ区の組織のなかで縦割りじゃなくて、横の連携がとれないのか。やっぱりお互いが譲りあつて、もう少し何とか知恵がでなかったのか。ちょっと工夫が足りない気がします。考え方が甘いです。初めから地域あつての学校。地域の人がいないと学校はいらないから。学校があるということは教室の数だけじゃなくて、地域住民もそこを利用できるようなことを考えてもらわないと。それにはお互いが譲り合うこと。どうせ遅れるならもう一工夫してもらわないと。初めからこの計画自体の考えが甘いと思います。最初からこの委員会の方たちはそれを主張している。教室の数にしても考え方が甘いと思います。約8年先に18学級との見通しですが、開校したらすぐに教室が足りなくなりますよ。人口をこれ以上増やさないとするのであれば、この計画でいいです。マンション建築を許可しないなんてできないでしょ。どんどん人口は増やし

ているのだから。

田中委員           みなさんが思っていることなのでしょうけど、これから人口が増えていく、それともあるところで人口増が止まるのか、それを行政としてどういう考えがあるのか。三番町でも 20 番地に一棟、先程話に挙げた学校の裏手に一棟、マンションができます。それらを踏まえて、どういう風にしていくのか。資料 2 によりますと、7～8 年先に 18 学級との見込みですが、実際にそのように人口が増えていくのか、それともある程度人口増が止まり、大丈夫なのか。それは我々にはわかりませんが、例えば行政は 10 年先をどう考えて、計画したのかということになると思います。実際、今はコンピューター室を転用して普通教室にするという方法がとれていますが、タブレット端末があるからコンピューター室はなくてもいいとかその辺も良く考えていただいた方がいいかと思います。ただ、人口増はある程度すると止まるという噂もあります。それは噂で、よくわからないですし、行政の方がよくお調べいただけると思いますけど。今の時点では、マンションがどんどんできつつあるので、人口が増える、子どもたちが増えるというのは現実にあるかもしれません。今ここで、もっと教室を増やすとか、それは難しいと思うけど、委員の多くから教室が足りないんじゃないかという意見はありますので、その点を行政は十分に考えていただきたい。

2 か月半工期が延びるということですが、これからもっと調べると、早くできあがるということはあるのでしょうか。

加島課長           これから工事がどう進んでいくかにもよりますが、現時点で 2 か月半の遅れを取り戻すことは難しいと思います。

田中会長           そうすると、早くても平成 30 年 2 学期開校というのが現状ですね。開校時に教室が足りない可能性をみなさんは心配されていると思うんです。そうした委員の意向を行政はよく考えていただき、工期延長もあるということを踏まえて何かいい方法がないかを考えていただきたい。個人的には人口がどんどん増えると思っていますが、あるところでは 4～5 年で人口増は止まるという話も聞きます。そういう見通しを行政は前もってわかっているのか、そうじゃないのか、その辺がわかりませんけれど。もう少し皆さんとお話できるのであれば、時間はもう少しありますのでご意見いただければと思います。

- 杉田会長           私の町会は九段小学校と番町小学校の学区域にまたがっています。今までは九段小学校の学区域の人もかなり番町小学校に行っていたんですが、最近は九段小学校に来る人が増えてきている。そういう実態を教育委員会は見ているのか。どうも見ていないような感じがする。しかも、人口も九段小学校の学区域の方が増えている。ご存知のとおり日本テレビ側はそこまで増えていないですが。
- 毎年春の安心・安全パトロールにできるだけ参加するようにしているが、子どもたちについていくと日本テレビ通りの西側に行く子が結構いる。新校舎ができると、今まで学区域を超えて番町小学校に行っていた子どもたちが九段小学校に来ると思うんです。これは当たり前のことですが、そうした数をちゃんと捉えないと、パンクすると思います。
- 田中会長           杉田会長がおっしゃたように今までは、麴町小学校や番町小学校の名前が良く出ていたんですけど、今は九段小学校に入るために引っ越してきている人もいます。先生方の教育の仕方がいいのか、今までと違った傾向にある。新しく学校ができるから増えているのではなく、先生がいいから増えているのではないかと思います。そうしたことを踏まえると、教室が足りるのかという話がでてくるのですが、確かに九段小学校を目指してきている人は多いです。
- 他にご意見はございますでしょうか。この委員のみなさんのご意見というのは本当に強い思いがあるので、よく行政に聞いていただきたいと思えます。
- 細内委員           初めから言ってるんですよ。机上の空論では困る。現場をしっかりと把握してもらわないと。今日の事故もそうですけど、靖国通りを横断するのは子どもたちにとっても負担がかかるのだから。
- 九段小学校の周りに人口が増えていることをご理解いただかないと普通教室は足りない。
- 小野寺委員       前段は良くわからないですが、こうした計画を作る際に校長先生とか副校長先生とか教員の方も意見も聞いているんですよ。実際に実務をやっている方はよくご存知なのだからアイデアもあつたはずで、その辺がどう計画に入っているのかわからないです。
- また、ガラの問題ですが、あの当時の建物で地下にガラが埋まっているのは常識的に考えてわかると思います。それが予定に入っていなかったということ自体が驚きです。うちのマンションだって耐震工事した際に

地下にガラがあり、それで工期が延びました。

細内委員 建物を建設するときに早くできるなんてことはまずないです。だいたい遅れます。

加島課長 ガラについてですが、多少出ることにはありますが、ここまで大量に出ることはまずないです。最初に申し上げたように復興小学校ということで、関東大震災時のガラ処分に利用された可能性があるのかなと思います。

杉田委員 うちの南側にマンションが建っていて、そこにはかつて教会がありました。教会が関東大震災で崩れて、その崩れたレンガを土台にマンションを建てた。だからこの地域は結構レンガが埋まっても不思議ではない。それを知らないで計画を立てるのは、ずさんです。言い方は良くないが、下町の長屋が多い地区と同じように計画を立てるのは良くないと思う。

加島課長 グラウンド等を試掘し事前の調査ができれば良かったのですが、想定で工事を発注できないので出現してきたガラについて対応する方法にしています。

杉田委員 東郷公園の交差点のところも関東大震災で道の位置をずらしている。今は完全な十字路になっているが、昔の地図を見るとクランク状になっています。おそらくその辺りに建物が建っていたと思う。そうした点を考えると、関東大震災で焼けたところはかなりいじっているんですね。少なくとも麴町地区で建築工事するならそれぐらいのことを考慮しないと駄目だと思います。

坂口委員 工期が2か月半延びるということで、皆さんもそう思っただらっしゃると思うのですが、さらに工期が延びる不安があります。あと、コンピューター室はタブレット端末があるから不要とのことですが、それは最初からわかっていたのではないのでしょうか。他の中学校の教室で、無線 LAN でタブレット端末を使用して授業しているのを聞いたことがあります。だったら最初からコンピューター室を作る必要もなかったのではないかと少し思います。工期が延びて計画を見直すことになったのだから、もっと深く考えていただいて次はこういうことがないようにしていただきたい。完成を待っている保護者のみなさんも地域の

みなさんも一番安心すると思いますので、せっかくのこのチャンスを活かして欲しい。ガラにしてもちょっと付け焼き刃の感じがしていて、もう少し先を読んで、このチャンスに活かして欲しいと思いました。

木田委員 工事のことでお伺いしたいです。鋼管杭ですが、現場を見ると丸い杭が並んでいますが、丸い杭の中はどうなっているのでしょうか。

加島課長 丸い杭の中は土がそのまま入っています。鋼管に穴が開いていますが、その中に土が入っている状況です。

木田委員 それでは、コンクリートを入れるとかではなくて、丸い鋼管がそのまま入るということですか。

加島課長 そうです。

木田委員 鋼管は腐食するのでしょうか。

加島課長 もちろん腐食はしますけども、特に問題はありません。新校舎竣工後は崖がなくなり、土圧を受けとめるような建物の擁壁を新しく作ります。

木田委員 それで鋼管が腐食しても大丈夫だということですか。

加島課長 そうです。

木田委員 崖地の上側にも家がありますから、少し心配しておりました。

細内委員 基礎はどのくらいの深さまで掘りますか。

加島課長 杭は一番下で地盤面から約28メートルのところに支持層が出てきますので、そこに杭を打ちます。

細内委員 杭はそこまで打つんですか。

加島課長 もちろん杭はそこまで打ちます。  
昨年、杭の偽装問題が話題になりましたが、我々が確実に確認します。杭偽装で問題になったものは既成品の杭を使用する施工法です。本工事

では現場造成杭というものを使用します。大きく掘りながら、コンクリートを打ちますので必ず支持層まで確認します。

田中会長 工期延長、部屋の数のことが話題にあがりましたが、校庭の人工芝について、鈴木委員いかがでしょうか。

鈴木委員 今の人工芝は野球などにけっこう使われています。滑ったりしても従前みたいに焼け付かないように改良されていると聞いています。  
今までの話を聞いていましたら、一番の根本的な問題は千代田区全体をどうしていくかということです。神田のほうに50階建てのマンションを建てたら、風が通り抜けないことがあった。考えがないんですよ。業者がみんな勝手に高い建物を建てて。  
あと、僕の一番の心配は体育館です。どのように整備されるのか。  
また、三多摩地区がある時期に人口が増え、都民体育大会でも昔は三多摩地区が若い人が多くて強かったが、今は若い人が23区に移ってきて、23区がまた強くなってきました。  
業者の方はマンションを作って儲け、学校に入る人数なんて考えていない。

加藤委員 質問です。今の話で言うと、人口がきつと増えると思うのですが、千代田区側の予測では28年度は12学級。予定通り12学級のままで新校舎に移転できた場合、普通教室3つは必要ない状態になると思いますが、その時は何かその教室は利用できるのでしょうか。ただ物置になってしまわないように、何か予定があるのでしょうか。

小川部長 12学級で新校舎へ移る予測ではありません。30年度に14学級で移る予定です。その場合、空き教室は4つになります。現状でも2学級3展開などの少人数教育を行っておりますので、まずその用途には使えます。あと、これから増えてくると思われるアクティブラーニングのグループ討議の場など使い方はたくさんあります。

加藤委員 机や椅子を配置し、がらんとしたスペースにはならないのでしょうか。

小川部長 そうですね。その時期の人数にあわせて椅子や机は配備したいと思います。

- 加藤委員 子どもたちにとっては、今でも余裕スペースがないので、せっかく空きがあるなら無駄にならないよう活用してほしい。
- 細内委員 心配いらない。空きがないから大丈夫。
- 田中会長 もうそろそろ時間になりましたが、まだ意見がある方はどうぞ。
- 大原委員 工期が遅れるということで先日、学校にて説明をいただきました。その際に一枚の紙で工期が遅れるということを保護者にお知らせすると聞きました。その時にも申し上げましたが、工期が延びるということは、今の幼稚園の年中さんのクラスが小学校への入学式を新校舎でできるかどうかということに関わるんですね。ほとんどの方が入学式は新しい校舎でできると思っております。そこで、1枚の紙で工事が2か月半遅れることを見たときに保護者のみなさんがどう感じるのかと不安に思いますので、説明を丁寧に、保護者の方にもわかるような説明を是非していただきたいです。
- それから人口が増えると、子どもも必ず増えるとのことですが、今年度の年中さんのクラスで言いますと、7人のお子さんが転入ってきて35人の定員いっぱいとなりました。もちろん学期の途中で転出する方もいますし、転入してくる方もいますけども、全園児で最大105人いて、1クラス35人中、30人は必ず九段小学校に入学します。私たちは現役の母です。現在の子育て状況については情報を持っていると思います。
- ちょっと前でしたら、クラス内にも一人っ子の方がいましたが、今はほとんどいません。3人兄弟、3人姉妹の方が増えています。お子さんが各家庭に1人、2人ではなくなってきましたし、転入で急に増えることはやっぱりありますので、人数のことは考えて欲しいです。
- それから、図書・メディアルームに変更されていますが、どのような使い方をして、どの授業で使っていくのかが分かりにくいので、授業でこのように使うとか、放課後このように使うとか説明していただきたいです。例えば、タブレット端末を使用することであっても、図書室とメディアルームが一緒になっても構わないと思います。使用の仕方を具体的に考えた上で、これから作っていくほうがいいと思いました。
- 田中会長 今、大原委員からお話がありましたが、紙1枚で工期延長を報告するのではなくて、さつき会・PTAの方々に直接ご説明して、お話を聞いた方がいいと思います。よろしく願いいたします。



- 小池課長 第一報として紙でのお知らせを考えていたということです。それから  
図書・メディアルームについてですが、これから学校と協議をしまして、  
使い方を説明する場を今後設けたいと思います。
- 田中会長 そろそろ時間となりましたが、次回開催はどのようにお考えでしょうか。
- 小池課長 小学校・幼稚園の保護者の方々への説明は行う方向で考えております。  
来週には通知を出して、お知らせしたいと考えております。幼稚園に  
関しましては、ご要望がございましたので説明会形式で日程の調整をし  
たいと考えております。小学校に関しましては通知を出して、その状況  
によって開催したいと考えております。  
次回の協議会に関してですが、現段階で次回の日程を決めるのではなく、  
今後ご説明するような場が必要になりましたら、会長と相談して開催す  
るよう考えています。いかがでしょうか。
- 田中会長 それでよろしいでしょうか。  
では、これで今日は終わりにしたいと思います。  
行政はいただいたご意見をよく検討いただいて、また委員のみなさまに  
ご説明する場を設けていただければと思います。  
本日はお忙しいところ、お集まりいただきありがとうございました。

以上